

# Web調査における社会関係資本に関する行動測定指標導入の試み

稲垣 佑典 データ科学研究系 特任助教

## 目的:

- ◆ 人々の関係性(例として 規範、信頼、ネットワーク)を一種の「資本」とみなす社会関係資本の議論は現在も活発 (e.g., Putnam 1993, Halstead & Deller 2015)
- ◆ 理論的研究の他に実践を目的として、さまざまな技法による測定が行われている
  - 社会調査: 比較的多数のサンプルを用いて信頼感、地域社活動への参加度などの「意識」を測定する
  - 経済実験: 信頼ゲームなどの枠組みにおける被験者の分配「行動」を測定する
- ◆ 社会調査で測定されていたのは、社会関係資本の「意識」的側面
  - ➔ 社会関係資本の効果(=協働)は行動として表出されるため、調査でも実験のように「行動」が測定できれば、知見の精緻化が可能

### 【研究目的】

社会調査の枠組みの中で運用可能な、社会関係資本の行動的側面を測定する**仕組みを開発し**、有効性を検討する

社会関係資本の効果や、地域間の異質性が正確に把握できるようになると期待されるため、理論のみならず実践面においても貢献

## 調査概要:

- ◆ 調査対象: Web調査会社A社登録モニター (20~69歳の男女を「性別×年齢(10歳)」で割当)
- ◆ 配信数: 30,443、(有効)回収数: 1,000
- ◆ 調査期間: 2019年2月25日(月)~26日(火)
  - ※回答時間、回答デバイス、手抜き回答検知の項目も盛り込んだが、それらの検討は別の機会に
- ◆ 対象者の協力行動を測定するため、場面想定法とボタンクリック回数を用いたオリジナルの調査項目を作成
- ◆ 社会関係資本指標としてポピュラーな「(一般的)信頼感尺度」の他、「参加組織数(自治会等)」、「地域活動活発度」、「地域新密度」を同時に測定
- ◆ 属性変数として「性別」、「年齢」、「学歴」、「職業」、「婚姻状況」、「収入」を測定

### 教示文

**Q20**  
現在、不特定多数の人が他の人々や組織の活動・プロジェクトに対して、インターネットを通じて財源や労力を提供することで、その活動を支援する「クラウドファンディング」という取り組みが行なわれています。

こうした取り組みの1つとして、あるホームページ上に設置されたボタンを、訪問者が好きなだけクリック/タップし、クリック数/タップ数の合計が100万回を超えたら、経済的な事情で十分な教育を受けられない国内在住の子供たちのために、100万円の基金が行なわれるというクラウドファンディングの計画が立ちあげられました。

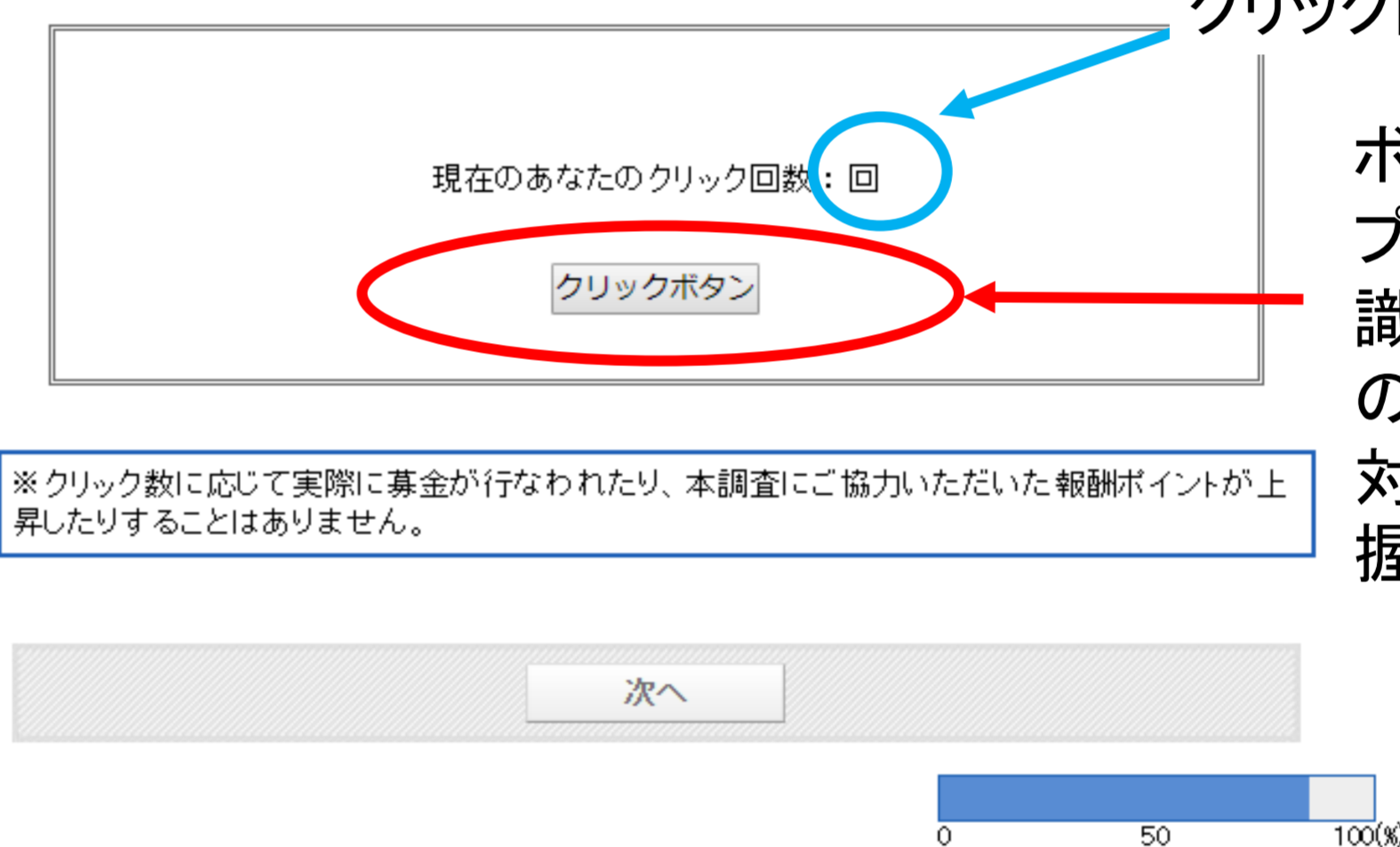
そのクラウドファンディングのページに設置されたボタンとは、以下のようなものです。

それでは、あなたはこのクラウドファンディングの計画に協力しますか、それとも協力しませんか。

協力する場合は、下のボタンをお好きなだけクリック/タップして、あなたの協力度をご呈示ください。

(クリックが終了したら、以下の「次へ進む」ボタンを押して、次ページへとお進みください。また全く協力したくない場合は「次へ進む」ボタンのみを押して次ページへお進みください)

### 回答画面



カウンターとなっており  
クリック回数が表示

ボタンのクリック/タップ回数により、「意識」ではなく、「実際の行動」として調査対象者の回答が把握可能

※クリック数に応じて実際に基金が行なわれたり、本調査にご協力いただいた報酬ポイントが上昇したりすることはありません。

Fig. 1 Web調査画面(クラウドファンディングへの協力行動)

## 分析:

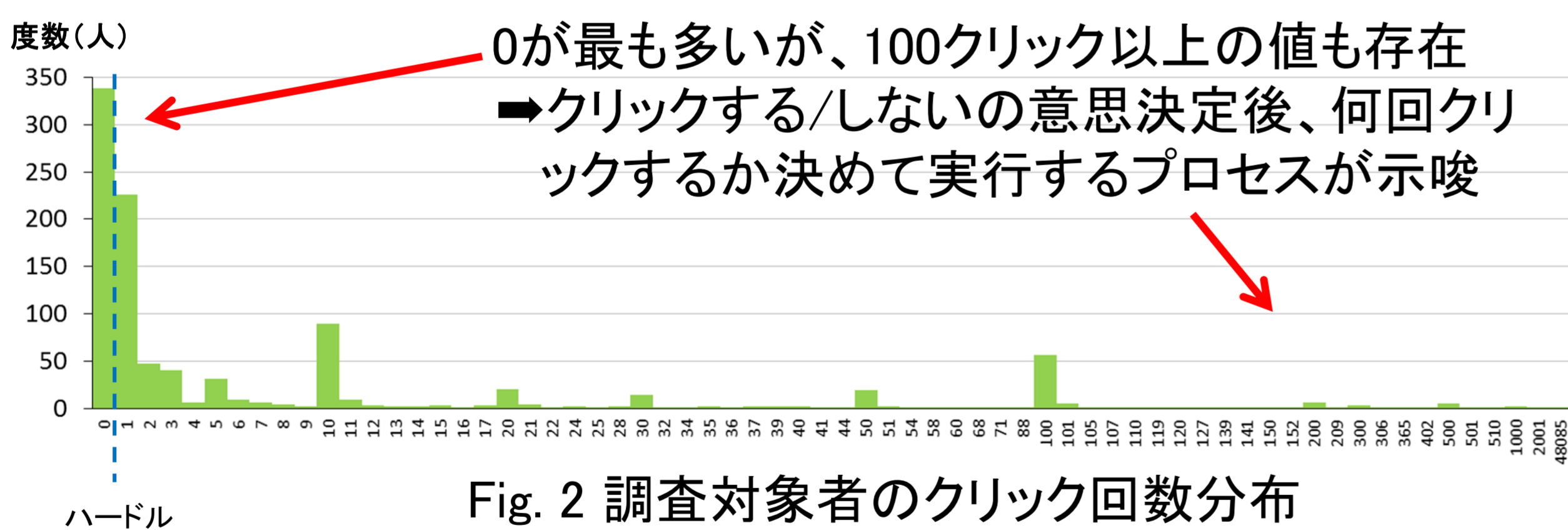


Fig. 2 調査対象者のクリック回数分布

0が最も多いが、100クリック以上の値も存在  
➔ クリックする/しないの意思決定後、何回クリックするか決めて実行するプロセスが示唆

### ◆ 調査対象者 (n=1,000) のクリック回数に関する記述統計

- M = 71.31、SD = 1,522.83、Min = 0、Max = 48,085
- ➔ 「0」の度数が最大で、データの散らばりの幅も大きい
- ➔ 「ボタンをクリックした/しない」をハードルとした、ハードルモデルによってクリック回数に対する説明変数の効果を推定(今回は Exponential hurdle modelを使用)

Tab. 1 ハードルモデル分析結果

従属変数: クリック回数	B	Robust S.E.
切片	1.18	0.55 *
性別(男性ダミー)	0.34	0.17 *
年齢	-0.01	0.01 †
学歴(大卒ダミー)	0.04	0.17
職業(ホワイトカラーダミー)	-0.48	0.17 **
婚姻状況(既婚ダミー)	-0.20	0.18
収入	0.00	0.00
一般的信頼感(6項目平均)	0.43	0.18 *
地域活動活発度(5項目平均)	0.22	0.12 †
地域親密度(8項目平均)	-0.16	0.14
参加組織数	0.13	0.06 *
ハードル(クリック回数≠0)		
切片	-0.72	0.26 **
一般的信頼感(6項目平均)	0.23	0.10 *
地域活動活発度(5項目平均)	0.01	0.07
地域親密度(8項目平均)	0.28	0.09 **
参加組織数	-0.04	0.04
切片(ln sigma)	0.57	0.03 ***
Wald $\chi^2$	30.58	***
Pseudo $R^2$	0.02	
n	738	

† p < .10, \* p < .05, \*\* p < .01, \*\*\* p < .001

## 考察:

- ◆ ボタンクリック回数と(既存の意識的)社会関係資本指標の変数の間には関連があるという結果
  - 「ボタンをクリックする/しない」というハードルに対しては、「一般的信頼感」と「地域親密度」に正の効果があった
  - 「クリック回数」については、「一般的信頼感」、「地域活動活発度」、「参加組織数」との間に正の効果があった
  - ➔ モデルのフィットはさほど良くないが、意識的指標では行動的指標の全てを説明できないとする知見を支持

意識と行動の両側面を測定することで、併存的妥当性が向上する可能性を示唆